

## 4 沼田城の普請・作事に関する文献記録

発掘調査で建物を構成すると考えられる柱穴と、真田氏によるものとみられる沼田城の大規模な整地層を確認した。これらがどういった建物、どの時期の整地なのか明らかにするためには、真田氏による沼田城の普請と作事に関する文献記録と、沼田城を描いた絵図面の集成が必要不可欠である。ここでは、今回確認した事項の検証と今後の調査の基礎とするため、沼田城の普請と作事に関する文献記録を、真田氏が普請を始める天正期から改易される天和2年まで集成した（表6）。また、真田氏による沼田城整備を大きく3期に分けて整理した。

**第1期整備 信之による天正期整備** 真田氏による沼田城整備は天正9（1581）年に武田勝頼によって、真田昌幸に沼田城普請が命じられたことに始まる。普請は昌幸の子、信之によって実施された。同11年から16年にかけて本丸はじめ二の丸、三の丸が整備され、同17年には奥御殿が出来上がっている。ここまで沼田城中心部が整いつつあったと見ることができる。しかし同年沼田城は北条氏に渡り、翌18年、いわゆる名胡桃城事件の結果沼田城が真田氏に返還されるまでの間に北条氏による沼田城普請が行われた可能性がある。天正9年から同17年までの沼田城が北条氏へ渡るまでの整備を真田氏による沼田城第1期整備と捉えることができる。

**第2期整備 信之による慶長期整備** 沼田城返還後の慶長元（1596）年2月に天守普請が始まり、翌2年2月に竣工している。さらに同9年西の三階、水の手門が完成し、慶長17年には三・四の丸を整備し大手枡形・惣堀を掘っている。天正期の整備部分の周辺にさらに整備の手を広げ、大手枡形と惣堀を掘削することで沼田城は近世城郭として完成された。また、寛永9（1632）年、表三階が加えられている。沼田城が北条氏から真田氏へ返還され、近世城郭として完成される整備を第2期整備と捉える。

**第3期整備 信直による万治・寛文期整備** 万治元（1658）年から、前年に襲封した5代信直（信利）によって大規模な改修が実施された。本丸地形嵩上げをはじめ天守等本丸内の主要施設、堀、石垣、二の丸、三の丸、二・三・四の門と、寛文元（1661）年頃に渡って普請が続いた。また、同4年に堤を普請、同10年に本丸内に十人番所が建てられ、延宝6（1678）年には三ヶ所の橋が架け替えられた。信直による特に万治元（1658）年から寛文元（1661）年の大規模改修を第3期整備と捉えることができる。

真田氏による第1期から第2期整備によって、沼田城は近世城郭として完成した。その間北条氏による普請が行われている可能性があることに注意したい。また、文禄3（1594）年、信之は父昌幸、弟信繁とともに京都伏見城の普請を行っており、その経験が第2期整備に反映されているであろうことも想像される。さらに、正保城絵図上野国沼田城絵図に

描かれている沼田城は、この第2期整備による沼田城の姿と言える。第3期整備により大規模な改修が行われ、沼田城の最終段階の姿はおよそこの整備によるものと考えられる。発掘調査によって検出した破却時の地表面や柱穴もこの第3期整備以降のものと考えられる。

表6 沼田城の普請と作事に関する文献記録

年号	西暦	月日	普請と作事の記事	主な出来事	文献	備考
享禄3年	1530			沼田頼泰、白沢用水・沼田城構築に着手する。	上毛沼田伝記全(高橋安治家)	
天文元年	1532			沼田頼泰、幕岩城から沼田城に入る。	沼田記事(内閣文庫)ほか	
元亀3年	1572			上杉謙信、栗林雅頼に倉内城の備えを強化するよう命じる。	栗林文書	
天正7年	1579			北条氏政、配下の軍勢で沼田城を攻め落とす。	武州文書	
天正8年	1580			北条氏政、清水康英に沼田城普請の人数派遣を命じる。	宮崎求馬氏所蔵文書	
天正8年	1580			藤田信吉、倉内城を武田氏に明け渡す。	加沢記所収文書	
天正9年	1581			武田勝頼、真田昌幸に沼田城を普請等を命じる。	真田家文書	
天正9年	1581	3月	城普請あり		加沢記	
天正10年	1582			北条氏邦、武田氏滅亡を受け真田昌幸に帰属を促す。	正村正視氏所蔵文書	
天正10年	1582			以降、北条氏と真田氏の間で沼田領をめぐる激しい戦いが展開される。	須田文書、狩野文書、林文書、加沢記等	
天正11年	1583	23日	本城を東南に開き堀をほり土手を築く。河田山、師、後閑山から材木、不動坂・奈良坂から石を引き寄せる。		沼田記事(内閣文庫)	
天正11年	1583	8月7日	台所棟上げ。		沼田記事(内閣文庫)	
天正11年	1583	8月18日	広間棟上げ。		沼田記事(内閣文庫)	
天正11年	1583	9月13日	大門棟上げ、屋敷建並。		沼田記事(内閣文庫)	
天正11年	1583	2月23日	東西に開き堀をほり土手を築く。後閑山から材木、不動坂・奈良坂から石を引き寄せ。瓦焼別所に居す。		上毛沼田伝記全(高橋安治家)	
天正11年	1583	2月23日	本城を東南に開き堀土手を築き、屋敷・門の普請始まる		平姓沼田氏年譜略(長野県立歴史館)	
天正11年	1583	8月7日	台所棟上。翌月13日大門棟上。家敷立並		上毛沼田伝記全(高橋安治家)	
天正11年	1583	8月7日	移徒、18日広間棟上げ 9月13日大門棟上げ		平姓沼田氏年譜略(長野県立歴史館)	
天正12年	1584	9月15日	移徒		上毛沼田伝記全(高橋安治家)、沼田記事(内閣文庫)	
天正13年	1585	2月12日	二、三の丸、土手、枡形を築き立つ。9月7日、二、三の門立つ。26日三の丸立。		上毛沼田伝記全(高橋安治家)	
天正14年	1586	2月	二之丸三之丸を構、土手枡形を築き立。九月二之門立、同十一月普請出来。		沼田記事(内閣文庫)	
天正16年	1588	12月15日	上意により本多中務の息女を伊豆守へ入輿の儀定まる それより奥御殿普請始まる		上毛沼田伝記全(高橋安治家)	

年号	西暦	月日	普請と作事の記事	主な出来事	文献	備考
天正 16 年	1588	12 月	奥御殿普請始まる、居間・書院・化粧之間・茶之間・局部屋・風呂屋・湯屋等迄来七月に出来の積。奉行大熊五郎左衛門。同年七月正月より。七月普請出来。		沼田記事（内閣文庫）	
天正 17 年	1589	1 月 11 日	奥の作事普請始まり 7 月 14 日出来。27 日にお祝い。		上毛沼田伝記全（高橋安治家）	
天正 17 年	1589	7 月		沼田城が、真田氏より北条氏へ渡される。	（家忠日記）	
天正 17 年	1589	11 月		北条氏直、猪俣邦憲に沼田城の警護を命じる。	猪俣文書	
天正 17 年	1589	11 月		猪俣邦憲、名胡桃城を奪う。		
天正 18 年	1590	1 月		北条氏政が猪俣邦憲に沼田城普請を命じる。	戦国遺文北条氏編、猪俣文書	
天正 18 年	1590	12 月		沼田領が真田氏に返還される。		
慶長元年	1596	2 月 5 日	天守普請に打立つ。九間十間五重に定め惣石垣増築。		上毛沼田伝記全（高橋安治家）	
慶長元年	1596	2 月 5 日	天守普請始まる。奉行木村土佐守、原郷左衛門、小山田壱岐守、羽田雅楽。此石垣増築奉行天守台奉行、矢沢但馬守。足軽六百人、郷人足信州の百姓方普請場に充満す。同二丁酉年二月天守棟上げ、十一月天守出来の祝儀。		沼田記事（内閣文庫）	
慶長 2 年	1597	2 月	天守棟上げ、11 月天守出来の祝儀		平姓沼田氏年譜略（長野県立歴史館）	
慶長 2 年	1597	2 月 5 日	天守出来。祝儀たり。		上毛沼田伝記全（高橋安治家）	
慶長 2 年	1597	2 月 19 日	殿守棟上。11 月 5 日成就の祝儀あり。		沼田記事（内閣文庫）	
慶長 9 年	1604	1 月	西の三階櫓、水ノ手門の普請始まる。6 月三階棟上げ、7 月門立つ。		平姓沼田氏年譜略（長野県立歴史館）	
慶長 9 年	1604	1 月 11 日	西の三階、水ノ手門の普請始まる。6 月 3 日三階棟上、7 月 5 日門立。		沼田記事（内閣文庫）	
慶長 9 年	1604	7 月	水手門立つ		沼田記事ほか	
慶長 17 年	1612	2 月	三・四ノ丸を割り大手枒形を築く。観音堂西に堤を拵え惣堀を掘る。8 月材木町、本町等を割る		平姓沼田氏年譜略（長野県立歴史館）	
寛永 9 年	1632		表三階櫓普請、5 月棟上げ		平姓沼田氏年譜略（長野県立歴史館）	
寛永 9 年	1632		表三階普請打立、5 月 4 日棟上。		沼田記事（内閣文庫）	
寛永 11 年	1634			信吉、時鐘を鋳て樓閣にかける。		時鐘銘文
明暦 4 年	1658		相続以来城普請修復始り、天守・櫓・石垣・堀等、その上本丸の地形五尺ほど築き上げ、滝坂口の小山引き取る		沼田城主歴代記録	（未翻刻資料）
万治元年	1658	1 月 11 日	天守・三階・二・三・四の門修復。3 月上堤に侍屋敷を割渡。		沼田記事（内閣文庫）	
万治元年	1658	1 月	天守三階、三、四ノ門を修復。3 月上堤侍屋敷を割渡す		平姓沼田氏年譜略（長野県立歴史館）	
万治 3 年	1660		真田伊賀守沼田領す、天守櫓石垣等破損万治三子年有増成就す、此節滝坂より土を取り本丸地形五尺余上る也		沼田昔物語（津久井忠雄家）	
万治 3 年	1660		天守・櫓・石垣等城内破損御修復、此節滝坂より土出為持本丸地形五尺余上候由		家伝秘録（金子家文書）	

年号	西暦	月日	普請と作事の記事	主な出来事	文献	備考
寛文元年	1661		御三階御普請、650 本沼田、350 本吾妻、代官に命ず		真田氏家中役人諸事奉覚書	年号誤記か
寛文4年	1664	7月	本丸地形、天守修復に打立つ。		平姓沼田氏年譜略(長野県立歴史館)	年号誤記か
寛文4年	1664	7月	本丸の地形惣口、天守修復に打立。		沼田記事(内閣文庫)	年号誤記か
寛文4年	1664	7月	本丸地形・天守を修復。		沼田日記(御事蹟稿伊賀守伝記)	年号誤記か
寛文8年	1668	2月	堤普請始まる		真田氏家中役人諸事奉覚書	
寛文10年	1670	5月	本丸大御門の内側に十人番所を立つ		真田氏家中役人諸事奉覚書	
延宝6年	1678	11月	城中三ヶ所の橋をかけ替(大門・三ノ門・溜門)		真田氏家中役人諸事奉覚書	
天和元年	1681	11月		真田信直改易	沼田城破却記	
天和2年	1682	1月		沼田城破却	沼田城破却記	

## 参考文献

- 茨木市編さん委員会編 2016『新修茨木史』所収「狩野文書」 茨木市
- 岩手大学附属図書館「宮崎文庫」収蔵 『早引消息節用集』1848 「宮崎求馬氏所蔵文書」
- 群馬県史編さん委員会 1978『群馬県史資料編5 中世1』所収「武州文書」 群馬県
- 国書刊行会 1985『続々群書類從 第4 史伝部3』所収「沼田記」 国書刊行会
- 国立公文書館「内閣文庫」収蔵「沼田記事」
- 埼玉県編 1980『新編埼玉県史 資料編6 中世2 古文書2』所収「正村正視氏所蔵文書」 埼玉県
- 滋賀大学経済学部附属史料館 1982『林文書目録』所収「林文書」
- 杉山 博・下山治久編 1991『戦国遺文 後北条氏編3』所収「猪俣文書」 東京堂出版
- 信濃史料刊行会編 『新編信濃史料叢書』15～18巻所収「真田家御事蹟稿」内「沼田日記(御事蹟稿伊賀守伝記)」
- 高木利太編 1927『家蔵日本地誌目録』所収「沼田昔物語(津久井忠雄家)」
- 戸羽山瀚・萩原民治編 1936『豆州志稿別巻』所収「須田文書」
- 利根郡みなかみ町 真庭久家所蔵「沼田城主歴代記録」
- 長野県歴史館「平姓沼田市年譜略」
- 沼田市恩田町 高橋安治家所蔵「上毛沼田伝記」
- 沼田市市史編さん会委員会 1995『沼田市史 資料編1 中世』別冊「加沢記・沼田根元記」
- 沼田市市史編さん会委員会 1997『沼田市史 資料編2 近世』所収「真田氏家中役人諸事奉覚書」
- 沼田市市史編さん会委員会 1997『沼田市史 資料編2 近世』所収「沼田城破却記」
- 沼田市歴史資料館蔵 「金子家文書」所収「家伝秘録」
- 米山一政編 1981『真田家文書』上巻 長野市
- 米山一政編 1983『真田家文書』中巻、下巻 長野市
- 六郷町学友館 1993『六郷栗林文書目録』所収「栗林文書」